

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2870800824		
法人名	(有)エムアンドエム開発		
事業所名	グループホームリーベストラウム		
所在地	兵庫県神戸市垂水区本多間2丁目34-4		
自己評価作成日	平成24年8月10日	評価結果市町村受理日	2013年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hyogo-kai.go.com/">http://www.hyogo-kai.go.com/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	2012年9月5日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様は皆様大正、昭和の厳しい時代を生き抜き現在の平和を築いて来られた方です。今の姿を見て「この方はこんな方だ」と思うのはとても事だと考えています。皆様社会で活躍し、家を守り、立派に子育てされた方なので、私達は尊敬と感謝を持って日々共に過ごさせて頂きたいと思っています。その入居者様に安心して健康的に明るい気持ちで暮らして頂く為に、毎日の食事を良質な食材で心を込めた手作りで提供しています。施設長管理者、職員も共に食卓を囲み和やかな雰囲気頂きます。お誕生日にはお好みに応じてお寿司や赤飯、お造り等でお祝いし、手作りバースデーケーキはご家族様にも一緒に楽しんで頂きます。運動会、夏まつり、敬老会ミニコンサート、クリスマス会、貸し切りバスでの行楽にも入居者様よりご家族様の人数のほうがいつも多いです。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

母体は長年地域医療に携わってきた医療機関で同じ建物の2・3階がグループホームである。建物横のホーム入口には手作りの看板が掛けられ、玄関までは利用者も一緒に育てた手入れの行き届いた季節の花が、来訪者だけでなく道行人の目も楽しませている。ホーム内も季節の花だけでなく、職員の心のこもった手作りのさりげない装飾が施され、ほっと和ませてくれる。開設以来、特に食を重視し、食材にこだわり、質、量、味ともバランスのとれた手作りに徹し、全員でおしく味わう喜びを大事にしている。利用者への尊敬と愛情にあふれた代表者のあたたかい目ざり、気づきが職員に行きわたり、今では利用者への職員の主体的かつ積極的な取り組みとなって現われている。この真摯な姿勢が、利用者ご家族への安らぎと安心への充足となり、利用者ご家族にとってのもう一つの我が家ともなっている。最後に、ホームが何よりも大事にしている利用者の人としての尊厳を尊重するならば、エレベーターを施設せざるをえない現状について、今後の再考を切に望みたい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

平成24年度 2F

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念の中に「私達は、本多間地域の方々との交流を深め、地域に開かれたグループホームを目指します。」と有り、玄関や事務所に掲示し、職員は常に意識を持って取り組んでいる。運営推進会議や家族会でも話している	管理者は、職員に会議等で常に投げかけ、日々の取り組みの振り返りの機会もしている。特に利用者の笑顔の大切さと、その笑顔が職員にとっての鏡であることを伝え、そのための実践を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年地域の文化祭に入居者様の作品を出品し、保育所の園児さんとの交流も盛んである。散歩を兼ねてコンビニエンスストアやスーパーに買い物に行き、店員さんと顔馴染みになっている。	地域の文化祭への絵や手芸等の手作り作品の出品や保育園との交流は恒例となり、利用者も毎年楽しみにしている。今後は地元自治会への事業所の周知を深めるために、会合等への積極的参加や、それをきっかけにホームへの理解にもつなげていきたいと考えている。	運営推進委員会での参加者からの意見等も踏まえ、地域の実情に即したホームからの情報提供もされてみてはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談が有れば入居の有無に関わらず出来るだけ被介護者と介護者へのアドバイス等をさせて頂く。運営推進委員の民生委員さんやふれあいの町づくり協議会の方を通じて認知症の方を取り巻く環境について話している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、各委員さんにホームの状況を伝えると共にご意見を伺う。そこで出た意見は入居者様への支援に生かしていく。	毎月の行事や利用者の生活状況や様子等の定期報告だけでなく、今回は関心の高い防災や節電対策についての提案や意見が出た。それを受け節電対策として消費電力の「見える化」を実施した結果、節電効果以上に利用者自らの参加も得られ、楽しく取り組むことができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	神戸市立本多間高齢者介護支援センターのあんしんすこやかセンターと連絡を密にとり、地域の皆様に情報を伝えたりセンター主催の地域ケア会議に参加したりしている。神戸市の担当者に相談に行く事も有る。	地域包括からの定期的な会議等で、懸案事項や必要な情報提供があり、事業所からも現況報告、利用者に関しての質問や相談についても、随時行っている。必要なテーマに応じた研修等も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない介護を徹底しており、ベッド柵、車椅子、言葉での拘束をも含めて常に取り組んでいる。建物の構造上、危険防止の為にエレベーターのみ御家族様の要望で施錠している。	管理者は全職員に報告研修や日々の会議等で、身体拘束について周知徹底を図るよう努めている。エレベーターの出入り口については、安全上やむをえず施錠している。	施錠の常態化及び利用者の閉塞感を少しでも軽減するためのケアの工夫等、継続した検討を期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	有料老人ホームで虐待問題が起きた時はすぐに施設内研修を行い、それぞれに意見を述べ思いを吐露し、職員が燃え尽きない様ストレスが溜らないよう、お互いに協力する事を確認しあった、	市内で起きた実際の事例を基に、全職員で再度検討し、職員一人ひとりの振り返りと気づきを出し合い、意識の統一を深めた。法人として、最大限のバックアップ体制で臨んでいくことも確認できた。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2Fには成年後見制度の利用者はいらっしゃらないが、職員は3Fに異動になることも考えて、必要なときには相談にも乗れるように勉強しておきたい。書籍等も配備しているが研修会の開催も考えている。	職員はこれまで資料等での学習にとどまっておらず理解を深めるには至っていない。成年後見制度利用の該当者もいることから、具体例を活かした研修を考えている。	今年度、さっそく実施されることを望みたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書の説明、個人情報取り扱いや重度化した時の対応、看取りに関する指針等を十分説明し、納得して頂いてから契約をしている。改訂時は運営推進会議、家族会を経て行政に届けて後実施している。	本人、家族の不安事項である重度化や終末期については、事業所の方針を丁寧に説明することですまず不安を無くし、最後には納得を得ている。医療的なことや加算等に関する費用についても十分理解してもらえるような説明を心がけている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議や家族会にてご意見を伺う他、ご意見箱の設置や苦情受付窓口を設けている。また普段からご家族様の来訪時には暖かくお迎えし意見や要望を言い易い雰囲気を作っている。	年2回の家族会やその中での家族交流時、運営推進会議を通じて、活発な意見交換ができています。今年度は防災や節電等についての提案、意見があり、即実施につなげた。行事開催をはじめ、普段の家族来訪も多数で、日常的なコミュニケーションが図られている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の全体ミーティングは職員全員参加を基本とし、日頃現場で感じている疑問や意見を施設長、管理者を交えて話し合う機会を確保している。また職員は現場の様子を細やかに把握し情報の共有に努めています。	毎月の全体会議には、代表者をはじめ全職員が出席し、職員からの提案や意見等を積極的に出し合う場となっており、前向きな提案等は即反映している。職員間の共有、協力体制確保の機会ともなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働が過剰にならないよう、入居者様の状態により規定以上の人員配置をし、余裕を持って働けるよう対応している。毎年の賃金アップ、賞与等の水準にもできるだけの配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職した職員には早出、日勤、遅出、夜勤各2回ずつは担当指導員を付け、力量に応じて回数を増やす事もしている。外部研修に参加する時は参加費や交通費の援助をし、介護支援専門員や介護福祉士の受験にはサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	垂水グループホーム連絡会を通じて交流を図り、情報を共有したり入居希望者の紹介をしたりしている。リーダー会、管理者会でホームの見学もし、お互いのホームの質を高める努力をしている。職員の交換実習も計画している。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の希望や願いを、言葉でまた言葉にならない場合は表情や行動で出来るだけ知る様に努力する。介護計画を作成する時にはそれを盛り込んで行く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面接では、入居者様がどんな生活を送れるようにご家族様が希望されるかを良くお聞きし、入居を決断するまでのご家族様の不安や葛藤を軽減出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人さま、ご家族様との面接時に、もしグループホームより他のサービスを必要とされている方だと思える場合はアドバイスすると共にそちらに繋いで行く支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事はホームで手作りし、職員も一緒に食卓を囲んでいる。テーブル拭きや盛り付け、トレー拭き等出来る事はして頂く。洗濯物干しやたたむ事も一緒にしている。お花の生け方等を教えて頂く事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が気持ち良く来訪されて、入居者様と共に過ごす時間を大切にできるように和やかな雰囲気心を心がける。また年に数回の音楽会や運動会、敬老会等にはご家族様もに大勢参加して頂いている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や親戚の方等が尋ねて来られたら、お部屋でゆっくり過していただいている。遠方からのお客様と一緒に食事をしたり、泊まれる事もある。	普段から家族や知人、友人等の来訪は多い。職員は声かけや居心地の良い雰囲気づくりを心がけ、ゆっくり居室で過ごしてもらえる配慮にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや催しの時は気の合う方同士で並んで頂いたり、会話が成り立つように配慮する。トラブルになりそうな時は職員が見守ったり、時には間に入って気持ちを和らげるような気をつける。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了する時には必要に応じて次の施設や病院を探したり、ご家族様の相談に乗ったりしている。亡くなられた方は初盆や一周忌にお供えやお参りもさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの思いを把握する為に言葉に表せる方の場合には傾聴し、言葉に出せない場合は表情や態度から汲み取って行く。	言葉に表しにくい人には、普段の表情やしぐさから汲み取ったり、家族が来訪した際に、一緒に相談しながらその人の思いに近づけるよう努めている。利用者の状態や意向については、常に職員同士で情報交換を行っている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームでの生活であってもその方らしい生活をして頂けるように、入居時にフェースシートに出来るだけ詳しく記入して頂き希望に沿った暮らしをして頂くよう配慮している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホーム内で、安全を考えるあまり過剰介護にならないよう、持てる力を見極める努力をしている。また偏った見かたにならない様常に複数の職員でカンファレンスしながら方向性を決める。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に個々の介護方針をカンファレンスし意見を出し合って、共通した介護をめざす。介護計画作成時にはアセスメント、モニタリング等に職員全員が参加して意見を出す。	本人の出来ないことに注目するのではなく、本人自らが目標を持って少しでも前向きに取り組めるようなことや、楽しみながら役割として取り組めるよう具体化することを重視している。主治医、家族にも相談のうえ、本人にとって無理のない現状に即した内容となるようにしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録、個人記録に日々の記録、発見を記載し情報の共有を図る。介護に関する気づきや工夫は職員間でカンファレンスし実践に繋げて行く。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の精神状態、体調等に応じてご家族様と一緒に過ごす時間を多くする為に、共に食事をして頂く、お部屋に泊まって頂く等ご希望に沿った柔軟な対応を心がけている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本多間地区の文化祭ではホームの展示ブースを設営して下さり、出品する作品を早くから用意している。当日は見学に行き、お茶やお菓子を頂く。本多間保育所の園児さんとの交流は入居者様がその可愛さに感謝して頂かれています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人とご家族様の希望を聞き、かかりつけ医の有る方は連携を取りつつ、普段の健康管理は提携医がしっかり診て行くようにしている。	かかりつけ医への受診は、基本的には家族が行うが、状況によっては職員が同行し説明することもある。提携医が階下にある為、日々の様子観察で異常の早期発見がし易く利用者の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設医院の看護師とホームの非常勤看護師がいるので、入居者様の状態に応じ常に適切な看護が受けられるようにしている。また介護職が看護職に相談をする事も有る。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の病院の地域医療連携室と連絡を取り、受診や入退院がスムーズに出来るよう良い関係を保つ努力している。病院の相談員さんとも密に連絡を取り良い状態で退院できるよう配慮している。	事業所は開所して10年目を迎え、医療機関との連携も密にとれ、退院後の受け入れ体制についても情報交換ができています。病院の地域医療連携体制が充実してきたこともあり、利用者、家族、医療関係者によりスムーズな連携が図れるようになった。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約前に、重度化した場合の方針や終末期の看取りについて説明している。その時期になったらご家族様、主治医、職員で十分に話し合い終末期の介護計画を作成してチームで取り組む。	入居時に終末期への要望を聞き、事業所の方針を説明している。終末期には本人と家族だけでなく、本人を困む関係者との意志統一を図ることも重視している。すでに看取り経験もあり、職員間で看取りプラン計画に沿って情報を共有し、家族と共に寄り添える看取りが実施できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や対応のマニュアルを整備し、個々には訓練を受けている職員もいるが、全体としての訓練は最近機会が無かったのでまた考えている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防避難訓練を行っており、火災時に消防署に直通で通報できる専用電話を実際に使用して訓練している。地域の民生委員さんや自治会にも災害時の協力をお願いしている。	建物の構造上、鉄筋で強度もあり、災害時は地域住民の避難場所ともなっている。また事業所から近距離に消防施設があり、防災上大きな安心にも繋がっている。災害時には、全ての職員が個々の利用者の特性を把握し、共有するよう心がけている。	

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法令遵守を徹底し、言葉掛けや態度に注意することをミーティングや研修でも常に話し合っており、それぞれの考えを研修報告書で提出している。	代表者は、利用者の今の姿を見て判断するのではなく、その方がこれまで生きてきた人生に対して尊敬と感謝を持つことを日々職員に伝えている。その実践の結果、職員は利用者への自然な丁寧な言葉かけとなって現われている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が思いや希望を表した場合は、良く気持ちを聴いて、解決できる方法を一緒に考えたりご自分で決定出来る様に支援している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先する事なく、入居者様の希望に沿って日々過すように努力する。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時にはご本人の希望の組み合わせで着て頂き、選べ無い方にはその方に似合う洋服を選んで着て頂く。清潔感の有る身だしなみをして頂くように配慮する。居室から出て来られる時は整容して出て来て頂く様子を促している。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの力を生かし出来る事をして頂く。食事中は楽しい会話をしながら、皆で食べる事の楽しさを感じて頂く。	開設時から、一貫して職員が手作り調理を継続している。職員の得意メニューやオリジナルメニュー、その季節しか味わえない新鮮な食材を活かした職員の顔が見える献立となっている。食事は利用者にとって待ち遠しい、会話も弾む楽しい時間となっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量等を記録しその方に応じた栄養と水分が確保できるよう注意する。一人ひとりに応じた形状を考えて摂取して頂く。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で出来るところは歯磨きして頂き足りないところは職員がお手伝いしている。週1回は歯科往診が有り歯の状態は大変良いと褒めて頂いている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を参考にトイレに誘導し、出来る限りトイレでの排泄が続けられるように支援する。夜間も排泄のパターンに合わせて、トイレやポータブルトイレに誘導する。	個別の排泄パターンを把握し、失敗の回数を減らすよう努めている。誘導の際は、ウオッシュレットの使用経験の無い人など、無理強いや不安を無くす配慮を心がけ、全職員がきめ細かい心使いをさりげなく行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や牛乳を多く摂取して頂き散歩や体操も積極的にしている。排泄表を参考に排便の状況を把握し、自立の方にも確認している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけご本人の希望に沿って入浴して頂くが、入浴を嫌がる方もいらっしゃるため入浴の気持ちよさをお話するなどして、清潔の暮らせるよう支援する。	利用者が午前中に外出する時は、入浴時間を午後に変更するなど、臨機応変に対応している。入浴拒否の人には声かけを工夫し、入浴中は利用者と一緒に歌を歌ったり楽しみともなるよう支援している。利用者個別の情報を共有し、職員間での連携に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体力に応じて日中も休んで頂く。夜間安眠できるよう室温や寝具に気を配り、就寝中も発汗等に注意している。人の気配を感じる方が安心する状態の方はリビングのソファで見守りながら休んで頂く事も有る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回の服薬に間違いが無いよう薬情報やお薬手帳を良く読み、服薬後も薬袋を3日間保存して確認する。症状に注意して変化見られる時は主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや気分転換等に配慮し、書や絵画、折り紙切り絵等その時々を最大限楽しめるようにする。また全体でする催し等でもなるべく全員が公平に楽しめるよう支援する。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩は天候と体調の許す限りご希望に沿い、またお誘いして出掛ける。ご家族様もお墓参り、買い物、食事などに誘って下さっている。春は車で健康公園にお花見、また貸し切りバスでご家族様や職員と共に神戸花鳥園に遠足に行った。	ホーム近くのコンビニへは、気軽な外出先として楽しんでいる。利用者の高齢化も伴い、遠距離の外出が困難な方も増えてきているが、バス旅行等は家族の参加も多く、家族との繋がりを深める良い機会ともなっている。また家族との外出、外泊は自由に行われている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない方もおられるが、ご自分でお金を持っておられる方も有り、買い物をしたり理髪店に行ったり、コンビニでコーヒーを買って飲んだりしている。切手を買ってはがきを出す事も有る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話を使用する方も有るが、ホームの電話で家にかける方も有る。毎日のように葉書を出したり、娘さんからの絵はがきを楽しみに待つ方もおられる。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節やイベントごとの飾りを一緒に作り廊下や壁に掲示する。玄関や裏庭に花や野菜を育て、水やり収穫を楽しむ。エアコンの風が嫌な方には噴き出し口の前に暖簾風の布を垂らし、又はドアを開けて廊下の冷風を入れるなど工夫する。	玄関前は幹線道路で交通量も多いが、一步事業所に入ると外部音は遮断され、静かで穏やかな生活空間になっている。広い廊下は掃除が行き届き、洗面所、トイレも匂いも無く清潔である。食堂と居間には季節感ある壁面飾りが飾られ、和風の調度品が利用者を和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子、ソファ等の配置を考え、1人になったり気の合った方と座ったり気楽に安心して過せる空間作りに配慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの有る家具類や写真等を配置し、ご自分の部屋で寛ぐ事も楽しいと思ってくよう配慮している。	居室は家族の協力によって馴染みの家具や趣味を活かした飾り付けがなされ、利用者が自宅と同じように落ち着ける暖かさが感じられる。クーラーの風が直接利用者に当たらないように、天井から布を垂らして和らげる工夫もみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室のドアに表札を掛けご自分の部屋が解るように、またトイレにもさりげなく目印やイラストを貼っている。		